

eye

「ほらっ、かわいく撮れてるよ」＝仙台市の宮城県立こども病院で10年2月3日



こども病院の写真セラピー



心の声表れたメッセージ＝長野県立こども病院で09年8月4日

ワークショップが始まる。すぐに中学1年の女子生徒が病院内の売店に走った。「新しいものはあるかな」とつぶやきながら、菓子のコーナーで写真を撮り始める。

2月3日に宮城県立こども病院の西多賀支援学校こども病院分教室で行われた「写真セラピー」。

「写真セラピー」を実施して4月からもう1カ所増やす。代表の酒井貴子さんは、こども病院を活動の原点だと感じている。

04年に長野県立こども病院で行った、最初の「写真セラピー」。

薬の副作用のためベッドで過ごす時間の多い女子生徒が参加した。

写真・文 梅村直承

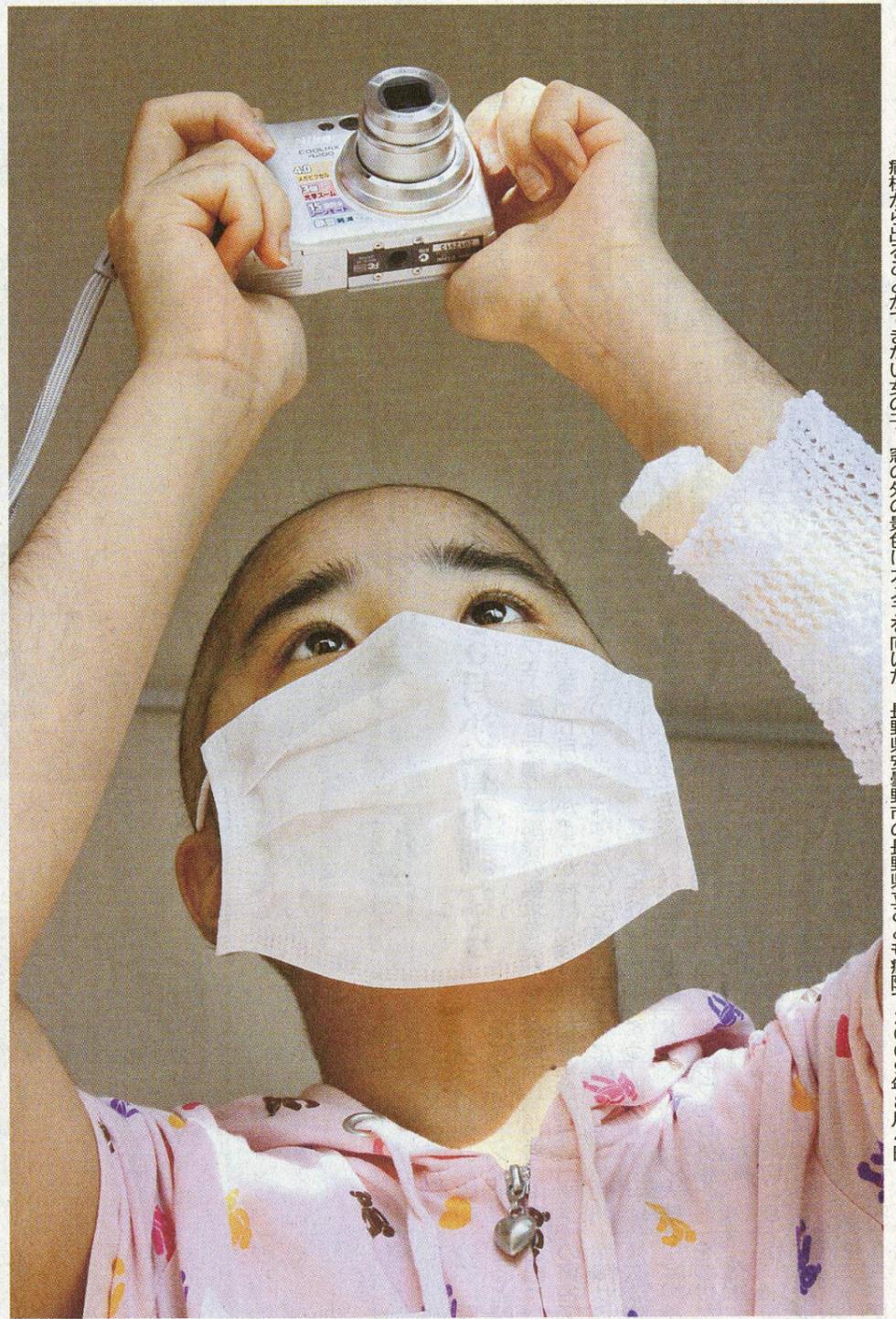


ボランティアに手伝ってもらい被写体を探す＝長野県立こども病院で09年8月4日



「このお菓子好きなの」。笑顔でシャッターを切った＝宮城県立こども病院で10年2月23日

思いを形にして 生きる力を喚起



病棟から出ることができない女の子。窓外の景色にカメラを向けた＝長野県安曇野市の長野県立こども病院で2009年8月4日

■NPO日本写真療法家協会が提唱
「写真セラピー(写真療法)」はNPO日本写真療法家協会を07年に設立した酒井貴子代表が提唱する療法。

写真を取り、好きなカットを選んでプリント。それを30センチ四方の画用紙に張り付け、自由に飾り付けて、言葉を添える「スクラップブック」を行う。写真

を通して自由な自己表現を楽しむことで、対象者が自ら癒やされ、自信や意欲など、生きる力を喚起する方法。写真の技術は必要とされず幅広い人が参加でき

る。知的障害者施設、高齢者施設、緩和ケア病棟など10カ所で実施されている。同協会(03・3755・2085)は、ワークショップの世話をするファシリテーター

の育成に力を入れている。今年は東京と大阪で実施予定。3日間の講座で、写真療法の理論、実践例、各施設での注意事項などを学び、実施方法を習得し、活動

を体験して修了となる。講座を修了し会員となれば、協会が無料で機材を貸与してワークショップを実施できる支援プログラムが利用できる。